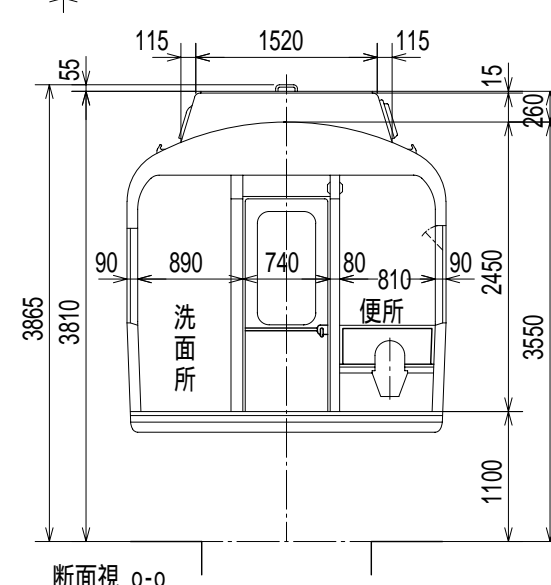
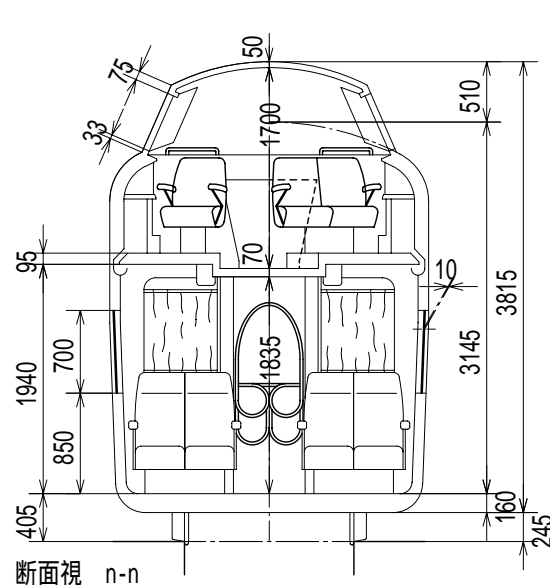
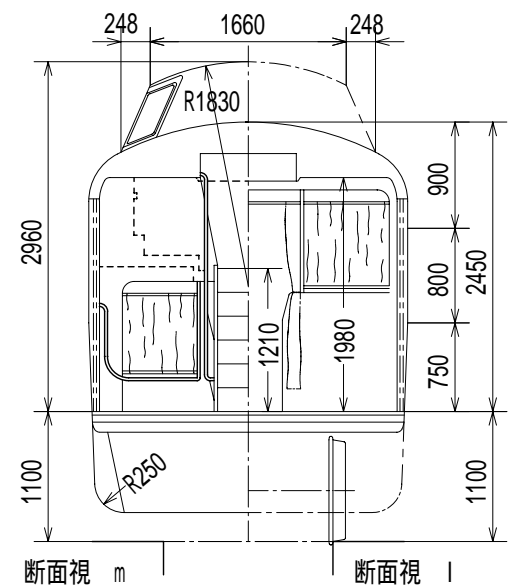
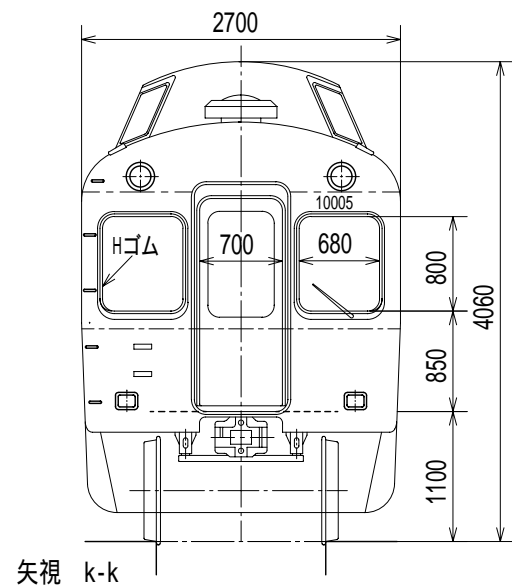
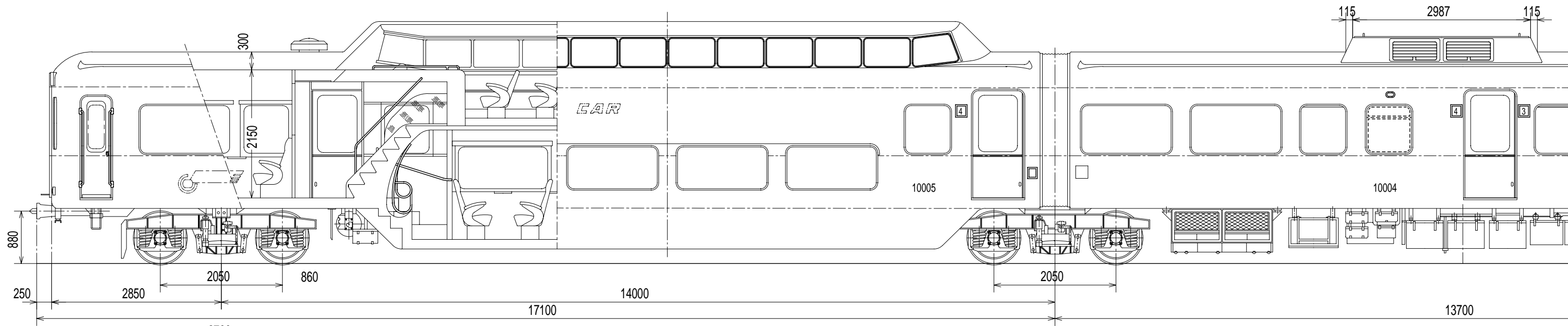
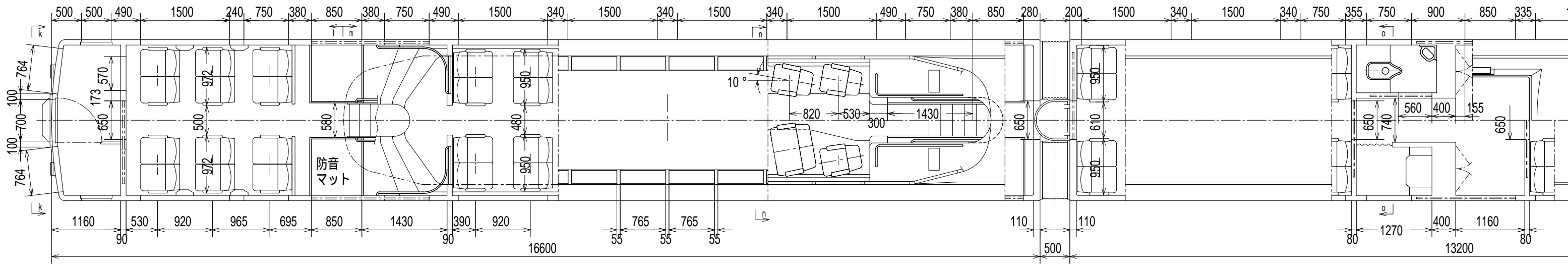


近畿日本鉄道 10000系形式図



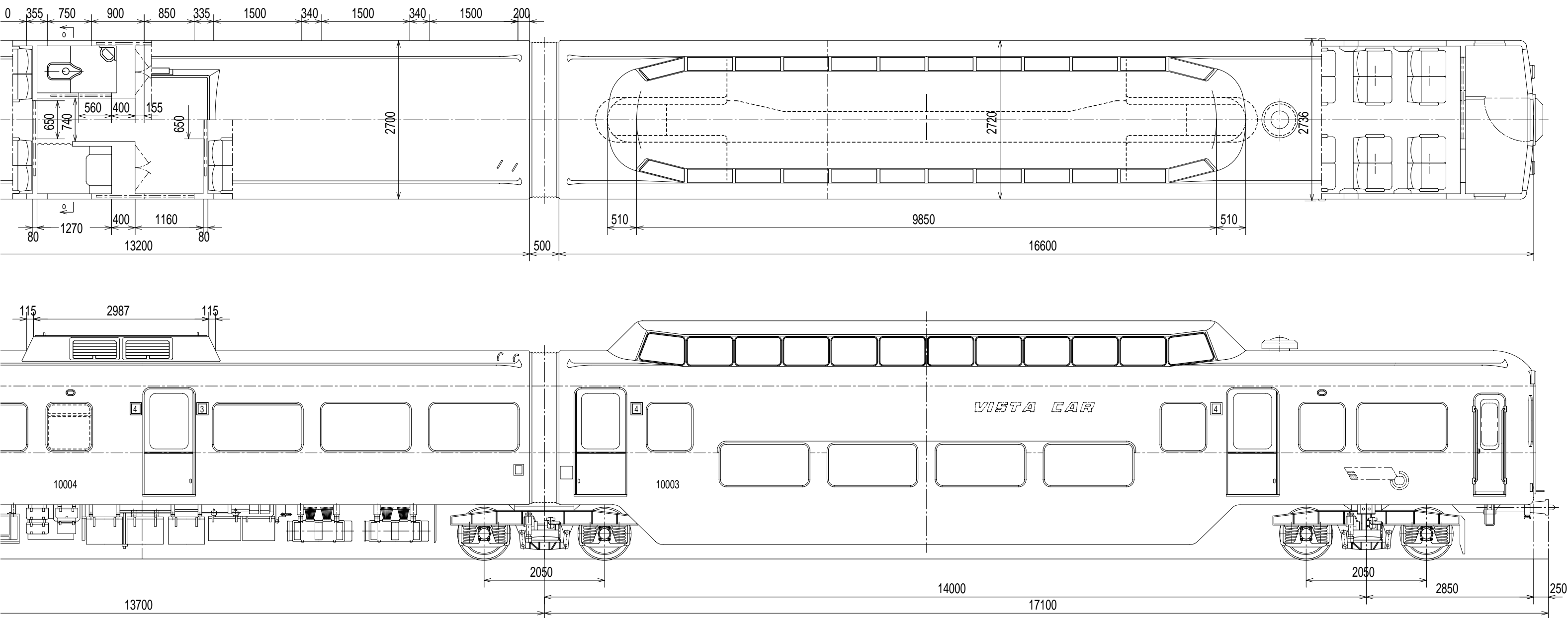
矢視 k-k

断面視 m

断面視 l

断面視 n-n

断面視 o-o



1958年 大阪線の特急用としてデビューしたデラックス電車である。日本で最初、電車としては世界に例を見ないといわれた2階展望室付の車輛を持っており、ビスタ・カーと名づけられた。追って一段と改良された量産車が登場したので、この車輛は旧ビスタと呼ばれるようになったが、とにかく日本の電車史上に残る存在といえよう。7輛編成1本で、前後にそれぞれ2輛固定連結された電動車があり、中間にはさまれた3両の付随車は接続式となっている。として、その内の2輛が2階式、中央の1輛には3輛分の機器を納めてある。

冷房装置付で、シートラジオや列車電話を設け、屋上や先頭部にアンテナが取付けられている。前頭部のスタイルは一種独特で、運転台を持ち上げ、その上部後方に空調装置がある。また電動車の折りたたみ式のドアも珍しい。図は山田寄りから5両目までを示したが右側に続く10002,1は10006,7と同じで、平面、床下、屋上は大体裏返したものとなっている。塗色は窓まわりがオレンジ、その上下がダークブルー、屋上と床下がグレーである。台車はKD26,27,27Aを使用。